

薬用作物「ガジユツ」の栽培法に関する研究

第2報 植付時期及び栽植密度と施肥反応

内村 力・*露重美義・中園 昭 (鹿児島県農業試験場・*鹿児島県農業試験場熊毛支場)

UCHIMURA, C., M. TSUYUSHIGE and A. NAKAZONO : Studies on the Cultivation of Zedoary (*Curcuma zedoaria* Roscoe).

2. The Reponse of Zedoary to Planting Times, Planting Dencities and the Amounts Applied Fertilizer

ガジユツの栽培法改善を目的として植付時期及び栽植密度と施肥反応について検討したので、その結果の概要を報告する。

1. 試験方法

1) 植付時期に関する試験: 1) 栽植様式, 畦幅90^{cm}, 株間20^{cm}, 555株/a 2) 植付月日, 4/10, 4/25, 5/10, 5/25 3) 施肥量 (kg/a) 基肥, 堆肥150, 苦土石灰8, N = 0.6, P₂O₅ = 0.96, K₂O = 0.96, 追肥, 第1回目, N = 0.3, K₂O = 0.3, 第2回目, N = 0.2

2) 栽植密度と施肥量試験¹⁾畦幅90^{cm}, 株間15^{cm} (741株/a), 25^{cm} (444株/a), 35^{cm} (317株/a), 2) 施肥量 (kg/a) 減肥区=基肥, N = 0.3, P₂O₅ = 0.48, K₂O = 0.48, 堆肥100, 追肥, N = 0.32 の2回分施に対し, 標肥区=2倍量, 多肥区は3倍量を各密度区に設けた。

2. 結果及び考察

1) 植付時期について

植付時期と萌芽状況については第1表のとおり, 早植区程低温のためにかかりの日数を要し, 植付期の早晩による萌芽期の差は極めて少なかった。地上部の生育は初期においては早植区が草丈, 出葉数ともに若干優ったが, 生育が進むにつれその差は小さくなった。

原料根茎は年次により若干傾向を異にし, 一定の傾向は認められずしかも植付時期の差による収量差は極めて少なかった。このようなことから本地域におけるガジユツの植付適期についてはその幅が比較的広く, おおよそ4月上旬~5月上旬と考えられる。

第1表 萌芽及び原料根茎重

項目 植付期	萌芽期 (3ヵ年平均) 月 日	萌芽まで 日数 (令仔)	原料根茎重 (kg/a)		同左比率 (%)
			53年	54年	
4月10日	6. 2	53	174	209	176 186
4月25日	6. 4	40	186	212	152 183
5月10日	6. 8	29	211	222	162 198
5月25日	6.12	19	181	210	148 180

2) 栽植密度と施肥反応について

萌芽及び地上部の生育について, 萌芽は各区とも6月上旬にみられ, 処理間による差はなかった。草丈は施肥量のちがいによる差はみられなかったが, 密度間では密植区ほど伸長し, 個体間競争による生育差がみられた。

茎数は個体当たりでは粗植区ほど多い傾向にあったが一定面積当たりでは密植ほど増加した。

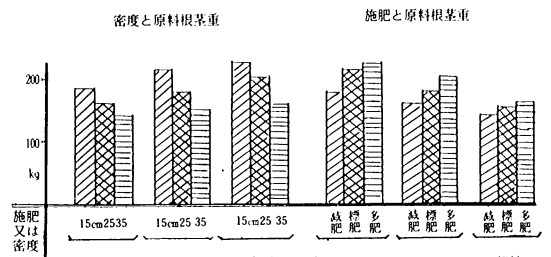
収量調査の結果を第1図に掲げた。施肥料と原料根茎との関係については, いずれの密度においても施肥量の多い

第2表 収益性試算表 (a当たり)

施肥 密度	a 当たり 令左--使粗 収 益 (A)-種子 (B)-使用		令 代 金 肥料代金 令左比率				
	原料根茎 (kg)	用種子芋重 (kg)	(A)	(B)			
減肥	741株	183.2	123.9	17.404	11,771 ^円	11,368 ^円	100
	444株	166.5	131.0	15.818	12,445	12,042	100
	317株	143.2	117.8	13.604	11,191	10,788	100
標肥	741株	218.2	158.9	20.729	15,096	14,291	125
	444株	181.2	145.7	17,214	13,842	13,037	110
	317株	151.6	126.2	14,402	11,989	11,184	103
多肥	741株	227.3	168.0	21,594	15,960	14,752	129
	444株	204.8	169.3	19,456	16,086	14,878	123
	317株	163.9	138.5	15,717	13,158	11,950	110

区ほど増収の傾向を示した。これは根茎数の増加による影響が大きく, 1個重との関係はみられなかった。このことは3ヵ年ともほぼ同様な傾向であり, 施肥量の増加により分球が促進され, 個数が増加したと思われる。

密度と原料根茎との関係については, 密植ほど着生個数が多くなり増収した。この密植による増収効果は, 増肥区ほど顕著にみられた。



第1図 密度及び施肥と原料根茎重 (kg/a)

以上ガジユツの栽植密度及び施肥についての検討をおこなった結果, 密植, 多肥による増収効果が認められた。しかし密植多肥することにより, それぞれ多くの種子代や肥料費が加算されて, 経済性が問題となるので, これの収益性についての試算をおこないその結果を第2表に示した。同表から判断して株間は15^{cm}程度 (741株/a) の密植とし, さらに増肥 (5割程度) することにより収益性が高まることうかがえる。

植付時期については適期幅が比較的広く, おおよそ4月上旬~5月上旬が適期と判断される。